

## 糖尿病療養指導自験例の記録

受講番号(ID)		氏名	
医療職	看護師		

自験例No.	タイトル	1型糖尿病を発症し不安を抱く高校生の症例
--------	------	----------------------

1. 症例 年齢 16 歳 性別 ○男 ●女 (  入院  外来  その他 ( ) )

指導期間: 2024 年 3 月 21 日 ~ 2024 年 4 月 6 日  現在に至る

※分かる範囲で記入してください。	(5)検査データ	随時血糖値	355	mg/dL
2. 療養指導開始時の患者の状態		HbA1c(NGSP)	14.2	%
(1)病型	1型糖尿病	(6)合併症・併発症		
(2)推定罹病期間:約	1 年	網膜症	なし	病期分類 網膜症なし
(3)嗜好品	飲酒: なし 喫煙: なし	腎症	なし	病期分類 第1期
(4)体格	身長: 162.6 cm 体重: 44.0 kg BMI: 16.6 kg/m <sup>2</sup>	神経障害	なし	
		動脈硬化症	なし	<input type="checkbox"/> 脳・ <input type="checkbox"/> 冠動脈・ <input type="checkbox"/> 末梢血管
		高血圧	なし	
		脂質異常症	なし	
		歯周病	なし	

※分かる範囲で数値や薬剤名を記入してください。	(3)薬物療法	あり
3. 療養指導開始時の医師の治療方針	【内服】	
(1)食事療法	糖尿病薬 ※Tは錠・カプセル・袋など全ての単位とする	
指示エネルギー	あり	2200 kcal/日
塩分制限	なし	g/日
蛋白制限	なし	g/日
(2)運動療法	なし	
(内容: )	【注射】	
	インスリン	朝 昼 夕 眠前
	( 超速効型 )	( 20 )-( 16 )-( 16 )-( )単位
	( 持効型 )	( )-( )-( )-( 18 )単位
	1日の総投与量	72 単位/日
	※持効型(週1製剤)使用時は、その使用日の総投与単位を記載	
	GLP-1関連薬 ( )	選択してください
	薬剤名: ( )	用量: ( ) 選択してください
	【備考・自由記入欄】	※CSIIやスケール対応の場合は、以下に記載

4. 本症例に行った療養指導

①この症例の療養指導上の問題点(あなたの職種から見て)

- 高校1年生で1型糖尿病を発症。罹病したことで、食べたい物が食べられない、就きたい職業に就けない、海外旅行に行けない、結婚・出産が困難になるなど、将来に様々な制限が生じると思い込んでいた。
- 入院前は3食の他に、休み時間や放課後などにチョコレートやプリン、飴などをほぼ毎日食べる習慣があった。好きなものを食べたいとの思いが強く、「焼肉屋や食べ放題、ケーキバイキングに行くのはダメか。」と何度も質問していた。
- 本人・両親ともに、高校に通学しながらの治療に不安を抱いていた。学校側に理解してほしい点、病院と学校との連携、学校内での連携などについて質問する場面が何度もみられた。

②その問題点への対応(主治医やチームの他職種との連携)

- 認定看護師・療養指導士の資格を有する看護師を中心に患者の思いを傾聴することから取り組んだ。疾患について正しい知識を持って色々なことに挑戦できると伝え、糖尿病教室に参加してもらった。
- 患者の食事に対する強い思いを主治医、栄養士と共有した。頻度が多ければインスリンの追加打ちで間食も可と主治医から許可された。医師の指示を踏まえて、間食や外食の上手な摂取方法を具体的に指導するよう、栄養士に依頼した。
- 低血糖・シックデイの対処方法、運動の際の注意点の資料を作成し、本人・両親・学校の担任・養護教諭にも説明、不安解消に努めた。インスリン注射の作用、日常生活での注意点や管理方法などの知識提供を薬剤師に依頼した。

③あなたの指導による患者さんの変化

- 不安を受け止めてもらったことで気持ちが落ち着いた。疾患について知識を得たことで、退院後の生活の具体的な質問をするようになり、患者なりに問題点や疑問点を解決し、「いつまでも落ち込んでられない。頑張るしかないですね。友人に話して、頑張れって言われました。」と、周りの協力を得ながら少しずつ疾患を受け入れようとする姿勢がみられた。
- 食事に対して「間食や外食を我慢しなければと思わず、インスリンの追加うちを行い無理せず行っていきたい」との発言がきかれた。
- インスリン注射の手技獲得に問題なく、担任や養護教諭とも話したことで「学校でもインスリン注射を行えそう。」と治療に前向きな姿勢がみられた。